

しおかぜ

～2015年 No.20～

基本理念

病める人とともに、和と向上心をもって、
総合的かつ継続的な地域医療の実現をめざします。

基本方針

1. 垂水市の中核病院として病診連携を充実し、地域に必要な救急医療から在宅医療まで 24 時間体制で提供します。
2. 垂水市の地域包括ケアの拠点として、保健・医療・介護・福祉を連携し、住民が安心して住み続けられるまちづくりに貢献します。
3. 鹿児島へのき地医療を支援するとともに、感染症および災害発生時には地域の拠点病院としての役割を果たします。
4. 患者の人権とプライバシーを尊重し、多職種が連携した患者中心のチーム医療に努めます。
5. 職員ならびに地域の医療従事者の教育に努め、医療の質を高めるとともに、鹿児島の医療人育成に貢献します。
6. 病院を健全経営し、地域住民に安定した医療を継続的に提供できるように努力します。

【目次】～CONTENTS～

- ◇鹿児島県医師会認定かかりつけ医制度について
・・・・・・・・・・P1
- ◇「カンゴザウルス賞」を受賞しました・・P2
- ◇インフルエンザについて・・・・・・・・P3～P4
- ◇総合防災訓練を実施しました・・・・・・・・P5
- ◇新任医師紹介・・・・・・・・・・P6
- ◇イベント（病院の話題）・・・・・・・・P6～7
- ◇病院診療実績（4月～8月）・・・・・・・・P7

鹿児島県医師会認定かかりつけ医制度について

地域包括ケアシステムの実現に向けて、各市町村で仕組み作りが推進されている今、在宅医療と介護とをつなぐ総合医としての「かかりつけ医」の役割に大きな期待が集まっています。今年度から、鹿児島県医師会が研修を受けた医師に対して「かかりつけ医」の認定を実施し、地域で安心して医療や介護のサポートが受けられる体制作りを進めています。

【かかりつけ医の定義】

なんでも相談できる上、最新の医療情報を積極的に学び、必要な時には専門医、専門医療機関を紹介でき、身近で頼りになる地域医療、保健、福祉を担う総合的な能力を有する医師

【かかりつけ医の目標】

- 1) 患者さんの現在の病気だけでなく、これまでの健康状態を理解し、適切な診療を行います。
- 2) 病院や他の診療所とも連携し、つぎ目のない最良の医療を目指します。
- 3) 患者さんから寄せられた保健・医療・福祉などの問題に、何でも相談できる医師として全人的に対応します。
- 4) 地域の一員として地域住民の皆さんと信頼関係構築に努めます。
- 5) 健康相談等の地域の社会的活動に積極的に参加します。
- 6) 保健・介護・福祉関係者との連携に努めます。
- 7) 地域の高齢者が少しでも長く地域で生活できるよう、在宅医療に取り組めます。

当院の医師 6 名が「かかりつけ医」に認定されました

【認定者一覧】

安部 智
竹中 俊宏
有馬 隆司
桑波田 聡
長野 貴彦
柳田 豊子



「カンゴサウルス賞」を受賞しました



2012 年度から「看護職のワーク・ライフ・バランス（WLB）推進ワークショップ」事業に参加していた当院に、3 年間の成果を顕彰して日本看護協会から「看護職のWLB推進カンゴサウルス賞」が贈られ、2015 年 5 月 13 日に東京青山ダイヤモンドホールにて授賞式が行われました。

WLBとは、個人それぞれのバランスで、仕事と生活の両立を無理なく実現できることです。当院のWLB推進委員会は看護部だけでなく事務部やコメディカル部門からの委員で構成されています。当院の看護部では、看護職が仕事も生活も充実して働き

続けられるWLBの実現に向けて、「1 人ひとりがやりがいをもって働き続けられる職場を作る」「個々のライフステージに合わせたキャリアアップを図り、質の高い医療を提供する」ということを目標に掲げ、WLBの周知、多様な勤務形態、労働時間管理、人材育成、組織風土の改善など多くの取り組みを行ってきました。

ちなみに、賞の名前になっている「カンゴサウルス」とは、WLBを通して看護職を新時代へと導くためのナビゲーターを務めるマスコットキャラクターのことです。恐竜は長い間栄えた後に絶滅しましたが、環境の変化に適応した仲間が、鳥類として生き残りました。そうした背景から、「繁栄」と「変化」のシンボルである恐竜を看護職の未来と照らし合わせ、幸せを運ぶナビゲーターとして生まれたのが「カンゴサウルス」です。

今後もこの取り組みを病院全体で継続し、元気でいきいき働く職員が、患者さんに信頼される医療・看護を提供できるように努めていきたいと思ひます。

【WLBインデックス調査結果（一部抜粋）】

	取組み前 (2012 年実施)	取組み後 (2014 年実施)
看護ケアに費やす時間を十分にとることができる	36.7%	52.2%
現在の仕事は自分の能力を活かせる仕事である	60.6%	66.5%
業務が終われば気兼ねなく帰れる風土である	36.7%	43.2%
有給休暇は必要に応じて取得できる	37.6%	45%
現在の働き方に満足している	42.8%	51.3%

【調査対象者】 ・ 看護師

【調査対象人数】

取組み前(2012 年)・117 名(回収率 100%)

取組み後(2014 年)・111 名(回収率 97%)

事業に取組んだ結果、各項目の評価が高くなった

インフルエンザについて

■インフルエンザとは

インフルエンザは、インフルエンザウイルスがのどや気管支、肺で感染・増殖することによって発症する病気です。インフルエンザは主に、インフルエンザに感染した患者さんが咳やくしゃみをするにより、ウイルスが空気中に広がり、それを吸い込むことにより感染します。これを飛沫（ひまつ）感染といいます。

■インフルエンザの流行時期は

季節性のインフルエンザは、例年 11～12 月頃に始まり、1～3 月にピークを迎えます。

■インフルエンザの症状は

インフルエンザの症状は、普通の風邪よりも急激に発症し、症状が重いのが特徴です。インフルエンザに感染すると、38℃以上の高熱や頭痛、関節痛などの全身症状が現れます。併せてのどの痛み、咳、鼻水などの症状も見られます。健康な人であれば、その症状が 3～7 日間続いた後、治癒に向かいます。高齢者や呼吸器、心臓などに慢性の病気を持つ方は、インフルエンザに感染することによりもとの病気が悪化することもありますので、十分な注意が必要です。



■インフルエンザの予防法は

●予防接種

インフルエンザの予防に効果が期待できるのが予防接種です。インフルエンザワクチンは、その効果が現れるまで約 2 週間程度かかり、約 5 ヶ月間効果が持続します。流行のピークを迎える前（12 月中旬）までに接種することをおすすめします。



●その他の予防法

- ・人込みや繁華街への外出を控える
- ・外出時はマスクを着用する
- ・インフルエンザウイルスの空気中での活動や感染を抑えるために、室内では加湿器などを使用し適度な湿度を保つ
- ・十分な休養とバランスの良い食事を摂取する
- ・うがい、手洗いを励行する

当院でのインフルエンザ予防接種について

【接種実施期間】 2015年10月15日（木）～ 2016年1月31日（日）

【接種実施日】 月～金曜日（ただし、祝日を除く）

受付：13時30分～13時50分

説明・検温：13時50分～14時10分

接種：14時10分～

【対象者】 満6カ月以上（満6カ月以上小学生未満の方は要予約）

※ただし、満6カ月～高校生の方の接種には保護者の同意が必要です。

【接種料金】 当院初回 **3,500円**（当院2回目：2,000円）

①垂水市に住民票があり、接種日に満65歳以上の方

②垂水市に住民票があり、満60歳以上64歳以下で内部障害1級の方（厚生労働省令で定める心臓や腎臓、呼吸器の機能又は、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害を有する方）

③垂水市に住民票があり、接種日に満6カ月～小学生の方

※①②に該当する方は初回のみ自己負担1,500円

（市補助：2,000円 1人1回につき）

※③に該当する方は初回のみ自己負担500円

（市補助：3,000円 1人1回につき）

■2015年10月1日（木）より内科外来受付にて予診票をお渡ししておりますので、直接お申し出ください。（小学生未満の方のみ予約制です）

総合防災訓練を実施しました

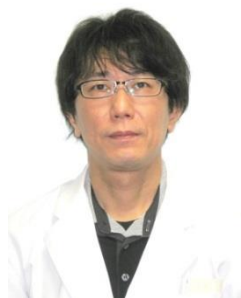
大規模災害の発生に対し職員が各種の災害対応について適切に行えるか、当院の防災体制の実効性についての検証を行い、災害対応マニュアルについての不備・問題点の洗い出し及び改善を目的に、2015年7月25日（土）13：00から当院で初めてとなる総合防災訓練を実施しました。

総合防災訓練は、7月18日から桜島で非常に活発な噴火が続いており、昭和火口で爆発的噴火が度々発生。25日13時30分に噴火警報へと引き上げられ、付近住民が避難を開始。14時には、大規模噴火が発生し、溶岩流や飛散した噴石が居住地域まで到達。噴石の飛散により、乗用車6台を巻き込む事故が発生し多数の負傷者が発生したとの想定で訓練がスタート。災害対策本部を院内に設置し、負傷者の受け入れ体制づくりを行い、スムーズに負傷者を受け入れることが出来るか訓練で検証しました。

今後、大正大噴火級の噴火が必ず起こると言われている桜島にもっとも近い急性期病院である当院では、大規模災害発生時の地域の拠点病院として、災害への対応を真剣に考え着実に進めていきたいと考えています。



新任医師紹介



眼科

おおい じょういちろう
大井 城 一郎

10月よりお世話になっております。鹿児島市出身です。私事ではありますが、結婚生活も同時に始まることになりました。ご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、宜しくお願い致します。



臨床研修医

つじ ひろあき
辻 紘明

鹿屋市出身、鹿屋高校、鹿児島大学卒です。高校時代まで鹿屋で育ち、同じ大隅の地である垂水中央病院で研修できることをうれしく思っています。現在、研修医1年目であり、まだまだ医師として半人前ですが一生懸命頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。

イベント ～病院の話題～

職場体験学習



5月26日～28日の3日間にわたり、垂水中央中学校の3年生4名が当院で職場体験学習に取り組みました。病院には医師や看護師以外に多くの職種の人々が働いていることを知ることが出来たようです。この職場体験学習で、生徒一人ひとりが人間関係を深め、働くことの素晴らしさ、喜び、厳しさを実感し、社会において働くことの大切さや自己の職業に対する意識を高めるきっかけ作りに役立ててもらいたいです。

在宅医療推進研修会



平成27年度第1回在宅医療推進研修会を、6月24日に南風病院緩和ケア内科部長の毛利通宏先生を招いて「ケアの原点回帰～過疎・高齢化の中で考えたこと」という演題で開催しました。

毛利先生は、60歳の時に始良市に開業していた医院を閉院し、中心部から約20km離れた僻地というわれる北山診療所の院長に就任。講演では、プライマリケア医として高齢化率が60%を超える地域で、住民に寄り添う医療を実践してきた貴重な経験を話されました。

集団事故救急救助訓練



9月9日の「救急の日」及び救急医療週間中の行事の一環として、多数の傷病者が発生する集団事故救急救助訓練が行われました。

訓練は、垂水市Aコープ前交差点で普通乗用車とマイクロバスが衝突し、多数の負傷者が発生。また、車両に脱出不能の負傷者もいるとの想定で実施。出動要請を受けた当院の医療チーム（医師・看護師等）は、現場救護所で救急隊と連携し緊急性を見分けるトリアージや応急処置を実施しました。

病院診療実績（4月～8月）

	4月	5月	6月	7月	8月
外来患者数 （1日平均）	4,880 （195.2）	4,778 （207.7）	5,318 （204.5）	5,330 （205.0）	5,244 （201.7）
新入院患者数	116	120	121	123	126
退院患者数	126	124	116	126	118

予約受付時間のご案内

月 ～ 金曜日	土曜日
14:00～17:00	8:30～12:30

※当院では全診療科予約制です。

※当日の診療に関するご相談や当日の予約時間変更に関するご連絡は、8:30から受付けています。

垂水市立医療センター 垂水中央病院

〒891-2124

鹿児島県垂水市錦江町1番地140

TEL：0994-32-5211 FAX：0994-32-5722（総務課）

0994-32-5230（医事課）

【E-mail】tarumizuhp@tarumizumh.jp

【URL】<http://tarumizumh.jp>